

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.192 2014.5.1

五月晴れの中、博物館に行こう！

5月の時計博物館では園児たちの声が響きます。普段見ることのできない時計が並び、時計技師による実演が行われます。また、博物館本館と3分館では工芸をテーマとした展示を開催します。



線香時計(龍の時計)



ロールスロイス型置時計

工芸の五月 参加企画 2014年4月26日(土)~6月1日(日)

[会場] 松本市立博物館 / 松本民芸館 / はかり資料館 / 歴史の里 (松本民芸館は 4月22日(火)~7月13日(日))

もくじ	誌上博物館	◇「松本民芸の夜明け前」開催によせて	2
	博物館TOPICS	◇「工芸の五月」参加企画展	3
		◇ひとの動き	4
	ガイドコーナー	はんでんぼく	4



「松本民芸の夜明け前」開催によせて

1 はじめに～関心の所在～

「戦前の松本にはみずず細工と木工ぐらいしかなかったんじゃないか？」そんな疑問をある関係者の方から投げかけられたことがきっかけです。はたして、戦前の松本に「民芸」と呼べるもの、あるいはそれに類するものはあったのか、この問題意識が「松本民芸の夜明け前」を探求してみようという動機につながりました。調べるうちに、長野県立歴史館のご高配により、戦前に松本市が発行したパンフレットをいくつか目にさせていただきました。

2 松本の産物

このパンフレットには、みずず細工・木工のほか、絹・綿・鉄製品・足袋・箒・広蓋（これも木工の一種ですが）など、様々な産物の名が挙げられました。このことから、戦前の市域において産物と認識されるものがいくつもあった、あったのであれば戦後の民芸と比較したときに同質性を認められるのか、この2つの論点を軸に展示を構成しました。

後者には、木工についての考察が検証につながるでしょう。本展に先立ち、戦前、終戦直後から木工を営んだ職人の作品や証言等を集めました。どなたも、先代について木工を習いはじめ、近年まで家具や建具を制作していました。

作品の特徴は、丈夫さが重視されていることと、外観には木の美しさを表出させようとしている点にあると言えるのではないのでしょうか。とくに、木の美しさについては、木目がはっきりしていること、玉杓たましやくともいう斑点状の木目が好まれることなどビジュアル面に加え、目が細かい、あるいは、分厚い一枚板を箆筒の天板に供じるなど素材の質を強調する手法を用いる、いかえれば、木の良さによって作品にステイタスを付しているかのような演出がなされているものが多く見られます。したがって素材としては、木目の際立つケヤキが好まれるということになります。

デザインや成果品の性質そのものにおいて、民芸が敷衍する前後のものを比較すると、同質性というよりは相違性をかいま見ることのできる産物をい



戦前に東町の職人がつくった箆筒型収納

くつか見ることができます。生活の変容は大きく影響したことでしょうが、その淵源には、何らかの志向性の違いがあるのではないのでしょうか。

3 副業という観点

そして興味深いのが、こうした産物の生産が多くなる場合、副業として営まれていたということです。農村において、みずず細工やわら細工は、稲作、養蚕の仕事の手が空く時期の収入源として重視されていました。さらに、木工については、職人が旅館の建具や企業の木製品の一括納入など大口の仕事を持つかわら、家具をつくり卸していた、販売していたという話しも聞くことができました。史料を見ると、副業は、日露戦争後の国債整理が大きな財政上の課題となる時期、そして、昭和恐慌後のいわゆる「非常時」に奨励され、販路が開かれようとしたことが指摘できます。国家のマクロな経済動態のなかで、注目された分野であったと言えるでしょう。

じつは副業について、日本民藝館も昭和11年（1936）の『民藝館の使命』という冊子のなかで「省ると農村副業の問題は必要に迫られて来ました」と言及し、「其成長を援助したい考へであります」としています。

このようなことから、近代において、各種産物の生産技術は、経済的な危機を背景に展開したものであるという可能性も検証しなければなりません。

さらに、民芸は「民衆的であること」、「手仕事」そして「価格が低廉であること」などといった理論的な説明を持ち合わせていますが、時を経た今日、そこに「副業的性格」という視座を付与することもできそうです。

4 おわりに～課題へのアプローチの場として～

松本における民芸運動は戦後であり、かつ、戦前からの松本の産物については戦後も長く営まれたものがあり、考えようによって、この分野は「近代史」というより「現代史」といった方が適切とも言えます。近い過去のことですが、今、さまざまな角度からこれらを見つめなおすと、新たな課題や疑問が内包されていることに気付かされます。

本展が、民芸品そして松本の産物をご覧いただく場となるとともに、みなさま一人一人に課題や疑問を投げかけ、またご自身が新たな課題や疑問、そして関心をお持ちいただける機会となれば幸いです。

（松本市立博物館 学芸員／草間厚伸）

「工芸の五月」参加企画展

松本民芸館 Tel.0263-33-1569

工芸の五月参加企画展「手仕事の技光る 木工展」



自在鉤掛け・えびす(富山県)

民芸の道を一筋に歩んだ松本民芸館創設者の丸山太郎は「用の美を教えられ、それが自分自身の生活の中にまで浸透していて、自分の幸せを感謝せずにはいられない」と著書に記し、柳宗悦の言葉「身は現世に繋がれながら心は浄土に遊ぶ」境地に達しました。今回の企画展では、幸せに感謝し、美の浄土に生きた丸山太郎が蒐集した木工・漆工品を展示しました。丸山太郎からの“幸せのお裾分け”を受取っていただければ幸いです。

(松本民芸館 館長／丸山廣登)

松本市歴史の里 Tel.0263-47-4515

工芸の五月参加企画展「くらしの中の竹細工」

竹は弾力性があり加工しやすく、木材と比べると成長が早く容易に調達できるため、古くから生活道具の材料として使われてきました。松本地方では、すす竹を使ったみすず細工が盛んであり、ざるや行李などが作られました。歴史の里に移築されている工女宿宝来屋にも竹製品が残されており、そのなかの多くはすす竹を使用したものです。本展では、宝来屋で使用されたみすず細工や、松本市内のみすず細工を紹介します。

(松本市歴史の里 学芸員／宮井博樹)



現代のみすず細工

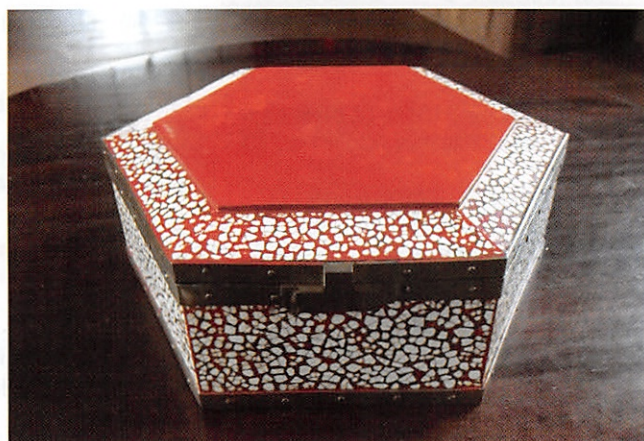
松本市はかり資料館 Tel.0263-36-1191

工芸の五月参加企画展「中町と民芸」

江戸時代に本町・東町とともに親町三町と言われた中町は、この町に生まれ松本民芸館を創設した丸山太郎のちきりや工芸店をはじめ、幾つもの工芸品店が点在する、“民芸のまち”として知られています。

本展では、みすず細工・お神酒の口など、江戸時代から続く城下町松本の伝統工芸品と、戦後に松本の民芸運動を先導し中町と縁が深い作り手たち一卵殻細工の丸山太郎・型絵染の三代澤本寿などの作品をあわせて紹介します。

(はかり資料館)



丸山太郎「卵殻六角箱」

関連事業

第28回 学都松本 歓館楽学対談 「木のスプーンをつくること」

様々な用途、そしてだれにでも使いやすい木のスプーン制作に取り組み職人に、話を聞き思いを語ってもらいます。

【日 時】5月18日(日) 午前10時30分～正午

【会 場】松本市立博物館 2階講堂

【参加料】一般200円(友の会会員無料)

【対談者】有限会社柳澤木工所 代表取締役 柳澤哲夫さん

【申込み】5月5日(日)から電話で市立博物館へ (Tel.0263-32-0133)

松本民芸の夜明け前

【会期】4月26日(土)～6月1日(日) 【会場】松本市立博物館

手仕事の技光る 木工展

【会期】4月22日(火)～7月13日(日) 【会場】松本民芸館

中町と民芸

【会期】4月26日(土)～6月1日(日) 【会場】松本市はかり資料館

くらしの中の竹細工展

【会期】4月26日(土)～6月1日(日) 【会場】歴史の里

ひとの動き

4月1日付で、次のように職員の転入・転出等がありました。()内は所属。

転入 よろしくお願ひします。

課長補佐	常盤井正芳 (中央図書館→山と自然博物館)
主事	千賀 康孝 (障害・生活支援課→考古博物館)
事務員	丸山 和子 (新規採用：博物館)
嘱託	福澤 昭司 (窪田空穂記念館)
嘱託	一志 良子 (はかり資料館)
嘱託	齋藤 由里 (障害・生活支援課→旧制高等学校記念館)
嘱託	水城 南 (博物館)

課内異動 改めてお願ひします。

分館長	白井 邦彦 (旧制高等学校記念館→昇格)
主事	原野 瑞江 (博物館→旧制高等学校記念館)
嘱託	栗木 文子 (博物館→旧開智学校)
嘱託	花村 圭介 (博物館庶務担当→博物館事業担当)



退職・転出 お世話になりました。

分館長	藤波由紀夫 (旧制高等学校記念館→退職)
係長	杉山 博章 (山と自然博物館→保険課)
主査	澤柳 秀利 (考古博物館→松本城管理事務所)
嘱託	小松源一郎 (窪田空穂記念館→退職)
嘱託	長尾小百合 (博物館→退職)
嘱託	田中健太郎 (はかり資料館→退職)
嘱託	保屋野宏江 (旧開智学校→地域づくり課)
嘱託	小林 宏貴 (旧制高等学校記念館→地域づくり課)
嘱託	北原佳代子 (窪田空穂記念館→鎌田中学校)

ガイドコーナー はんてんぼく

時計博物館から ☎0263-36-0969

時の記念日企画展
「時計博物館 収藏品展」

明治の改暦から時の記念日の制定までの歴史を紹介するとともに、普段常設展示していないコレクションを公開展示します。

会期 5月24日(土)～6月22日(日)
会場 松本市時計博物館 3階企画展示室
観覧料 通常観覧料

古時計説明会(一般対象)

学芸員による企画展の解説と時計技師による時計の実演を行います。

日時 6月7日(土)、8日(日)
午前11時20分と午後2時20分
会場 松本市時計博物館 3階企画展示室
参加料 通常観覧料
申込み 不要

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

企画展「松本押絵雑による端午の節句」

会期 4月26日(土)～6月8日(日)
会場 馬場家住宅主屋
観覧料 通常観覧料

お茶席の会

日時 [第2回]
5月11日(日) 午前10時～正午
おしゃれ茶道の会(裏千家)
[第3回]
6月15日(日) 午前10時～正午
松風の会(表千家)
会場 馬場家住宅主屋
参加料 通常観覧料
申込み 不要

はた織り体験教室

日時 6月28日(土)
[午前のクラス]午前10時～12時
[午後のクラス]午後1時～3時
会場 馬場家住宅門長屋
定員 各5名
受講料 各講座1,000円
申込み 電話で馬場家住宅まで

歴史の里から ☎0263-47-4515

みすず細工体験

地元で採れるすず竹を使って小物入れを作ります。
日時 5月28日(水) 午後1時～3時
定員 10名
参加料 1,000円(材料費等)
講師 松本みすず細工復活プロジェクト
申込み 電話で歴史の里まで

たかばた
高機で裂き織り体験

昔ながらのはた織り機で、「裂き織り」を体験してみましよう。

日時 ①5月28日(水) 大人対象
午前10時～正午、午後1時～3時
②6月28日(土) 親子(小学生以上)対象
午前10時～正午、午後1時～3時
定員 午前、午後とも各5名
参加料 1,000円(材料費等)
講師 川上裕子氏
申込み 電話で歴史の里まで

草木染め体験

よもぎを使ってシルクのショールを染めます。

日時 5月29日(木) 午後1時～4時まで
会場 歴史の里 展示休憩棟
定員 10名
参加料 1,500円(材料費等)
講師 歴史の里 里染めの会
申込み 電話で歴史の里まで

松本民芸館から ☎0263-33-1569

講演会「木工の技と美」

松本民芸館では、民芸に親しむための講座を継続して開催しています。今年は、木工の技と美をテーマに開催します。

日時 5月18日(日) 午後1時30分から
会場 松本民芸館
定員 40人
参加料 通常観覧料
講師 谷進一郎氏(木工作家)
申込み 電話で松本民芸館まで

用の美市

信州の伝統を受継いだ職人たちの竹細工・やきものなどを展示販売します。

会期 5月24日(土)～26日(月)
会場 松本民芸館
問合せ 電話で松本民芸館まで

考古博物館から ☎0263-86-4710

春季企画展

「わが地区の逸品～島内地区の遺跡～」

島内地区の遺跡を、貴重な出土資料と写真パネルで紹介いたします。

会期 4月26日(土)～6月29日(日)
会場 考古博物館
観覧料 通常観覧料



三尊仏像 平瀬遺跡

あとがき

あなたと博物館5月号の編集をする時期は、ちょうど桜が咲く頃です。河原の桜が満開で、花見客も多いようです。暖かくなってきて、外をゆっくり歩きたい時期ですね。(T.Y)

あなたと博物館 No.192

発行/平成26年5月1日 編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail:mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社